

市民との対話事業 **市長とふれあいトーク**

実施日時	平成 26 年 6 月 13 日 (19:00~20:30)		
実施場所	下条公民館	参加人数	9 人
参加対象	下条子供会ジャンボリー実行委員会		
懇談内容	<p>【1. 発言者】</p> <p>① 地元小学生を対象に行うキャンプで、旧東下組小を利用している。キャンプ専用の施設ではないため、給排水や水飲み場が足りない。ここで田舎体験をやらせたいという動きもある。施設が何とかならないか。</p> <p>② 下条では、子ども家庭、メディアからあえて離れた生活を体験させるためにキャンプを継続的に行っている。</p> <p>【市長】</p> <p>① 旧東下組小の活用の方向性については、東下組の皆さんからご意向を示してもらえれば、そのための支援を考えやすい。</p> <p>② 子どもを家庭、テレビなどから離れた時間を過ごさせるのは良い取り組みなので、お続けいただきたい。</p> <p>【2. 発言者】</p> <p>(先述の市長回答②を受け) 親もその気になって、子どもを送り出す構えが必要だ。</p> <p>【市長】</p> <p>地域、学校、市が連携できる余地もあると思う。市では、地域自治組織に対し、地域内の活動を支えるために財政面から支援をしている。</p> <p>【3. 発言者】</p> <p>(市長の回答を受け) 市からの支援をキャンプ活動にも充てている。</p> <p>【4. 発言者】</p> <p>旧東下組小を、宝木塚(葛飾区)の子どもたちの受入れの場としている。旧市には、都会の子どもを受入れるための充実した施設がない。</p> <p>【5. 発言者】</p> <p>中央公民館のテントは相当に古く、雨に耐え切れないものが多い。</p> <p>【6. 発言者】</p> <p>テントは予算がなく、年に1組ずつ替えようかとのことだった。</p> <p>【7. 発言者】</p> <p>キャンプは自然が豊かな山の中でやる方が良い。</p> <p>【市長】</p> <p>旧市内の施設整備が十分でないことをあらためて認識した。一方で飛渡地区では、地域自治組織がパワーアップ事業交付金を利用</p>		

し、笠置キャンプ場を整備した事例もある。こうした取組みを参考にさせていただきたい。

【8. 発言者】

- ① 合併後に開催した市民体育祭は一回で終わってしまった。みんなで汗流す機会がほしい。ぜひ市長からも検討してもらいたい。
- ② 雪のイベントも、1～2週間で一気にやってしまうことも面白い。

【市長】

- ① 祭りのように各地域の歴史、伝統が絡むものは難しいが、スポーツはやりやすいのではないかと思った。しかし、合併後の体育祭の後、「懲りた」という声が多く、想像以上に拒否反応が強かった。
- ② 十日町の雪のイベントは、1～3月までが一つのまとまりと捉えている。その中で中里と松代の開催時期が重なり、調整も必要と考えるが、同時期だからこそ、お互いを利用しようという良い面もある。

【9. 発言者】

雪国観光圏はどのような状況か。一つの地域として勝負する取組みは素晴らしいと思う。

【市長】

国の支援もあり、湯沢を基点に考えるJRの思惑とも合致しており、素晴らしい取組みだと考えている。

【10. 発言者】

染職人も減ってきている。人材育成をしようとしても給料が安いから人が集まってこない会社も多い。伝統産業の維持について、市でも芸術祭で光を当てるなど考えてほしい。

【市長】

当市には、きものの伝統があり、品評会を見ると素晴らしいものばかりだ。しかし、小売りやクリーニングなど、きものづくりの周辺の分野で頑張っている会社が多い。きものづくりの領域で投資をするのであれば支援をしたい。

【11. 発言者】

市役所も月に2～3回はきもの日をつくったらどうか。生活の一部としてきものがあってほしい。

【市長】

職員からは自分で来てもらおうとありがたい。私も2回は着ている。きものは面倒だが、それがいいと捉えつつある人はいる。